

# それゆけ！ としよかんだより



2012年2月

第58号

発行所  
高野山大学図書館  
閲覧室

## 「私の図書館活用法」

文学部准教授 井上ウィマラ先生

大学生のころ、社会学のゼミ仲間「こんなに天気いい日に、なんで部屋の中で本を読んでいるんだろう・・・」と言ったら、「そうだよなあ」ということになって、みんなで公園を散歩しながら当時話題になっていたレヴィ＝ストロースの『悲しき熱帯』について話し合ったような記憶があります。構造主義の基になるさまざまなきらめく思考がちりばめられているこの本が教えてくれたことは、それまでの西洋的な目線で世界を見てはいけないということであり、なんとなく大学における学問のあり方に不満を感じていたそのころの私を勇気づけてくれるものでした。

結局私は大学を飛び出し仏門に入り、日本を飛び出してミャンマーのテーラワダ仏教に出会って一応の納得を得ることができました。自分はこのために生まれてきたのだという問題の核心に触れることができたような気がしたのです。しかし、その仏教や瞑想法を教える立場になって、今度はミャンマーを飛び出してカナダやイギリスやアメリカで瞑想を教えながら心理療法を学んでみると、自分は現代社会の中でブッダの教えをどのように生き抜くのかというテーマにぶつかって、十数年続けた出家生活に一区切りをつけて還俗することになりました。仏教瞑想と心理療法を統合するというテーマをライフワークのように感じ始めていたころの私には、人生そのものが読み解かれるべきテキストであり、大切な一冊の本であるというような思いがありました。

大学でスピリチュアルケアの講義を受け持ち、仏教、宗教、スピリチュアルケアなどの学会で発表するようになった今の私にとって、図書館は論文を書くためにとても大切な場所です。どんな天気でも、資料を探して書庫を歩き回ります。探していた本のページをめくりながら、次に必要な資料が見えてきたり、新しいアイデアが浮かんできたりします。歩きながら、行動しながら考えるという私の癖は今も変わってはいないようです。

論文の中核となるアイデアは経典の中に記されたブッダの言葉であったとしても、それを研究史の流れの中で根拠付け、自分の考えを合理的に説明して、他人から理解してもらえるようにする必要があります。こうした作業を通して、よいアイデアだと思っていたものが単なる自分の思い込みであったとわかってくることがないわけではありません。冷や汗が出るような瞬間です。でも、それも一つの学びです。そうした体験を含めて、最初の閃きが思いもよらなかった大きな構築物として姿を現してきたのを見たときの喜びはひとしおです。その喜びがあるから、根気の要る作業の中に集中してゆくことができるのだと思います。

ふと、「論文を書くという作業には、何か格闘技に似た楽しみがある」という気がするときがあります。たえず自由に動きながら常に全体を見渡すような俯瞰的視点を維持しておかなければならないところがあるからでしょう。

# 館蔵古写真紹介 - 本学旧講堂 -

図書館員 木下浩良

本学は、明治19年(1886)開校の古義大学林を創立の始まりと公称するが、その当時に存在したのがここに紹介する旧講堂である。それは、高野山内の上蔵院の庫裏を、現在の金剛峯寺奥殿に設けられた大学林の地に曳いてきたものだった。

昭和4年(1929)に本学校舎が現在地に建築され、同7年(1932)同講堂も再度曳かれて移転となった。同年11月3日に落成式が挙行された。この時は仮講堂と称されていた。近々に鉄筋コンクリート造3階建ての大講堂建設が意図されていたが、結局は実現することはなかった。講堂の設置場所は、現在の密教文化研究所付近であった。本学校地の一番奥まった場所である。現在の図書館は昭和4年(1929)に竣工して既にあり、天皇皇后両陛下の御真影が奉納された奉安殿は、図書館と講堂の間地点に昭和12年(1937)に建設された。

開校当時からの建造物としては、唯一残されたものとして親しまれた。昭和24年(1949)、畳敷きを椅子席に替え、舞台が設けられた。その後は、映画館や講演会の会場として、活用されることになった。同29年(1954)には厚生館と改称して、それまで以上に高野町民の方々への映画上映等に用いられるようになった。ところが、昭和34年(1959)、不審火により焼失してしまった。

現在の講堂の前身の、松下講堂が完成するのが昭和40年(1965)である。その間、本学には講堂は無く、図書館閲覧室において卒業式・入学式などの大学行事はなされたのであった。



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	1	2	3

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
26	27	28	29	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

	9:00-18:00		13:00-18:00
	13:00-18:30		9:30-16:30
	9:00-18:30		閉館
	9:00-17:00		

切り取り

## 図書館通信

### ミニコーナー

『映像化された本』をカウンター横に設置しています。どうぞご利用下さい！

### 長期貸出の開始について

2月3日(金)より、長期貸出を開始します！

返却日は4月9日(月)までです。

長期貸出は本学学生のみ対象となります。

(学部生4回生・大学院修士課程2回生・博士課程3回生・別科2回生・通信生の方は対象外です。)

### 新刊書籍

第146回芥川賞受賞作『共喰い』田中慎弥著、『道化師の蝶』円城塔著、直木賞受賞作『蝸ノ記』葉室麟著が入りました！

(編集後記)

2・3月の春休み中も、火・水・木曜日、図書館は開館しております。是非ご利用ください♪

(石原)



発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町高野山385

高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835

Fax:0736-56-5590

E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp